

# 指定ごみ袋

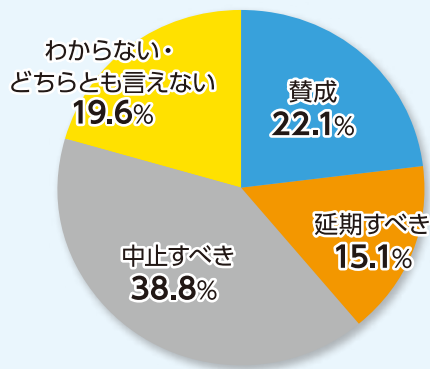
# 納得して いない 96%



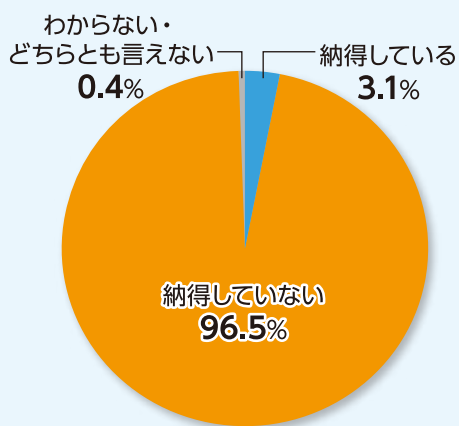
いぬい紳一郎 小田桐たかし 植田和子 高橋あきら

アンケート中間集計より

今年4月からの本格実施について



指定袋の導入について



自治会の集まりやタウンミーティングでは、「納得いかな」「値段が高くてもつたない」「輸入品で良いの？」との声が出されています。それもそのはず…流山市民の「一人・一日当たりの排出家庭ごみ量」は、全国平均、千葉県平均よりも大幅に低くなっています。

一方、指定袋の導入に伴い、12月議会に提案された補正予算には、「違反ごみ警告用ステッカー」の大量印刷などに132万円を計上。乳幼児や要介護者がいる世帯に対する指定袋一部支給、生ごみたい肥化補助等、新たな事務や業務も増加中です。

「高いごみ袋をなぜ買わなきゃならないの」「今でもしっかりと分別してる」

## 広報で「非常事態」

## クリーンセンターを緊急視察!

稼働から18年を迎えた焼却炉。22年度から4年間かけ大規模改修をスタートさせる計画でしたが、3炉のうち1炉は「想定外」の故障に。家庭の燃やすごみの一部を柏市で処理しています。

日本共産党市議団は、安全・安定な焼却炉の稼働を最優先するよう市長へ要請し、現地を緊急に視察しました。



12月23日、視察する党市議団

## ジェンダー平等



日本共産党東京都委員会・ジェンダー平等委員会が実施した『痴漢被害のウェブ調査』では、初めて被害にあった年齢が18歳以下という回答が7割以上に。さらに「触られるうちが華」その程度で騒ぐなど軽視し、嘲笑されていることも判明しています。日本共産党の国会質問に、岸田首相も「痴漢は犯罪であり、決して許されるものではない。今年度、痴漢被害の実態調査を行う」と表明しています。

流山市議会では日本共産党市議団の質問に、「人権侵害」と回答する一方、男女共同参画を担当する部長は「女性の護身術を習う講座を実施」との答弁も…。痴漢は、女性が気をつけていけば無くなるものではありません。人権侵害にもつながる考え方は意識改革が必要です。

一方、市議会では昨年1年間だけでも、「男女共同参画社会の本格的実施を求める意見書」「LGBT理解増進法案」早期制定等を求める意見書「性暴力を受け妊娠してしまった場合の経口妊娠中絶薬の保険適用等を求める意見書」を可決し、ジェンダー平等の前進へ共同した取り組みを広げています。

## 白みりんミュージアム?



12月議会で「白みりんミュージアム」建設計画を市長が発表。市民も議員も寝耳に水の話です。「白みりん」をテーマとした体験型施設とし、流山キッコーマンの敷地内に2024年開館を予定。しかし委員会審査では、建設費や年間運営費、入場料の有無も不透明です。「昔、破綻した箱もの行政をマネしてどうするんですか?」「市立博物館でも企画展示をやっており、不要不急です」との声が聞かれています。

## 身近な要求実現



グリーンバス乗降場の改善  
(東部診療所前)  
高橋あきら



生理用品の配布場所  
複数箇所へ (社会福祉協議会)  
植田和子



授業時間確保へ屋根設置  
(おおぐろの森小学校のプール)  
小田桐たかし



公園の古びて危険な鉄柵を撤去  
(三輪山二丁目)  
いぬい紳一郎